



2017年1月25日

東北大学 災害科学国際研究所
所長 今村 文彦 殿

一般社団法人 日本建築学会
会長 中島 正愛



東北大学災害科学国際研究所の共同利用・共同研究拠点化に関する要望書

貴研究所は、平成24年4月、東北大学の附置研究所としての創設時、設立理念として、国内外の研究機関と連携し災害科学を深化させること、巨大災害の被害軽減に向けて社会の具体的な問題解決を指向する実践的防災学の礎を築くことを挙げています。それ以来、東日本大震災の実態と教訓に基づく新たな学問分野として「実践的防災学」を掲げ、これを体系化・推進することで、災害科学領域の拡充・進歩に大きく貢献してきました。東日本大震災での発生メカニズム、被害発生・拡大過程の実態解明を目指す研究、減災技術・防災情報などの先端研究を融合させて社会への実装を図る研究、複雑な地域社会での被災地支援や適切な復旧・復興を促す研究、さらに、地域の特性や歴史・文化に根差した実現方策を提案し迅速に回復可能な社会構築を先導するような萌芽的な研究など、文理にまたがる様々な分野で研究業績を上げてきました。特に、大震災での知見に基づき、災害対応サイクルの中で、防災・減災を社会で実践できる学問体系を整理し、社会実装できるプログラムを展開してきたことは、大きな評価に値するものです。

また、貴研究所が、共同利用・共同研究拠点への申請にあたり、これまで以上に研究者コミュニティとの合意形成に留意し、これまで進めてこられた研究者コミュニティとの共同プロジェクト研究を更に強力で推し進めるとの方針を掲げていることを強く支持します。

以上より、貴研究所が、設立後数年間で多大な成果を上げ、本学会の発展にも貢献されてきたことを高く評価するとともに、今後、貴研究所が「実践的防災学研究拠点」としてさらに充実・発展し、共同利用・共同研究拠点としての役割を通じて、本学会を含む災害科学研究コミュニティの期待に応えることを要望いたします。

以上